

子ども新聞 週刊

鷹匠の仕事を学ぶ

きょうのテーマ

みんな知りたい



鷹匠の松原さんに取材するのも記者

ニュース
教えて

銳い目とかぎ爪を持つ
つタ力を使つて狩りをする
る鷹匠(たかじょう)を知つてゐるか
な？ 山形県天童市の松原英俊さん(75)は半世紀

松原さんを取材しました。（8面に関連記事）

夕力と生きる思い熱く

「雪山の尾根を歩き、父側にいる獲物を探します」と教えてくれました。夕カは空腹でないと、獲物を捕まえません。ども記者が「どんな訓練をしますか」と質問すると、「絶食」を繰り返していく。「空腹状態にしていく。やり過ぎると弱る。その見極めが鷹匠の腕の見せどころです」と松原さん調教技術を身に付けるには、数年かかるそうです。

「1番うれしかった」とは何ですか」。こども記者が問うと「自分が訓練したタカが初めてウサギを捕まえたときです。4年半かかりました。(この一瞬のために生きてきたんだと号泣しました」と答えました。

近年は獲物を捕まえても全く収入にはなりません。「お金は関係ない。タカと共に生きたい。自分にあるのは、ひたすらにその情熱のみです」。松原さんの言葉に、2人は圧倒されました。

この日 何の日



大学時代、卒業後の進路を考えたとき「山に入り、生き物で生き物を捕まえる鷹匠が、自分にはぴったりだ」と思った松原さんは、24歳の時に山形県真室川町に住んでいた鷹匠沓沢朝治さん（故じん）に弟子入りしました。電気ガス水道のない山小屋で、タカと暮らす日々を15年続けました。

- 2面 ミラノ・コルティナ五輪特集
- 3面 3分チャレンジ
- 4・5面 わが校わがまち スクール
- 6面 キホンがわかる こども英語
- 7面 投稿特集
- 8面 狩りの様子を実演



この目 何の目

◇20日（火） トランプ米大統領就任1年

昨年のこの日、ドナルド・トランプ氏(79)が第47代米大統領に就任しました。米国の利益を最優先する米国第一主義を掲げ、貿易国に経済的な取引を迫る「トランプ関税」などで世界に波紋を広げています。